



福音讃美歌ジャーナル

福音讃美歌協会

新しい歌を
主に歌え

■巻頭言■「ときの声をあげるまで」

福音讃美歌協会理事 矢木良雄

昨年の日本伝道会議で、サンプル歌集『あたらしい歌』を配布し、制作作業の進捗状況を具体的に見て、聞いていただくことができました。早速、新しい讃美歌をこの春の教団総会や年会で使ってくださったこともお聞きし、うれしく思いました。同時に発行した「ジャーナル特別号」で収録希望リストもお届けしました。

今、私たちの気持ちは、エリコを前にしたヨシュアに似ています。すでにヨルダン川を渡り、マナも降ることをやめ、引き返すことのできない所まできたのです。しかし目の前には、城門を堅く閉ざし、だれひとり出入りする者もないエリコがそびえ立っています。これから主のご命令に従って、七日間エリコの周りを回らなければなりません。彼らには角笛を吹き鳴らす七人の祭司たちがいました。武装した戦士たち、契約の箱をかつぐ祭司たち、民、もちろんヨシュアもいました。何よりも、ともにおられる主ご自身がおられました。神さまはなぜ七日間もエリコの周りを回るように命じられたのでしょうか。一日で落ちてしまえば、もっと神さまの御力と栄光が明らかにされたでしょうに。きっとイスラエルの民にはそれだけの準備が必要だったのでしょう。

これから一年間、最大の山を迎えます。作業を担当する讃美歌委員会、神学委員会、音楽チーム、歌詞チーム、版下作成チーム等がいっせいに本格的な活動に入ります。いのちのことば社の皆さんも制作や著作権交渉など多くのご労を担ってくださいます。やるべきことは山ほどあります。イスラエルの民がそれぞれの役割を果たしたように、私たちも担うべき分を全力を挙げて果たしていきたいと思います。

それにしても新しい讃美歌集を生み出すというのは途方もない大きな事業です。聖書翻訳の働きと同じ、あるいはそれ以上の困難がつきまといます。讃美歌の影響力は、私たちの信仰の質を決めてしまうほど大きなものです。それだけに歌われる歌詞の一つひとつ、音符の一つひとつは慎重に吟味されなければなりません。讃美歌ですから、神さまへの礼拝にふさわしい敬虔さ、信仰的な響き、親しみやすさ、美しさ、そして福音を証しするメッセージの明確さがなければなりません。もちろん日本語としても洗練された言葉づかいが求められます。それらが相まって、しっかりとした骨格のある讃美歌集となり、教会の霊性を形作る働きを担うものとなります。

ですから私たちもこれから、慎重の上にも慎重に作業を進めていきます。やがて「ときの声をあげて」、教会の期待に応えることのできる、みごとな讃美歌集の完成をお知らせしたいと願っています。

「うたわざらめや」 再考

今、私が高校生であった頃から、ある種のインパクトと共に自分の中に染み入っていた一つの聖歌があったことを思い出す。

わがため十字架の なやみとはじを うけさせたまいし わが主のあいよ。
ちしおのいさおに ほろびの火より のがれしわがみは うたわざらめや。

(『聖歌』280番1節)

インパクトというのは、最後のフレーズの「うたわざらめや」。当初は理解できなかったのだが、「歌わずにはいられようか」の意である。



この「うたはざらめや」という表現だが、1903年版『讃美歌』収録の「うきよのなげきも」(303番)においては、英語の"How Can I keep from singing"の訳として採用されている。1931年版『讃美歌』(550番)では、歌詞を全く変更せず再録しているが、1954年版『讃美歌』(530番)では、「うたはざらめや」の部分だけが「いざほめ歌わん」に変更された。

19世紀アメリカのバプテストを背景とする詞曲の作者R.ローリー*の信仰に共鳴しつつ、私たちの教会でも長く歌い継いできたかと思われるが『讃美歌21』と『新聖歌』においては採用をみなかった。

これとは別に、『聖歌』(280番)「わがため十字架の」においても、「うたわざらめや」のフレーズが採用されているのは最初に見たとおりである。『聖歌』では、作曲は『讃美歌』

と同じくR.ローリー、詞は笹尾鉄三郎の作詞という扱いになっている。恐らく詞は、ローリーの詞に触発された笹尾の翻案というべきであろう。初出は1894年の『救の歌』(42番)で、それ以降、大小幾度かの改訂がなされているが「うたわ(は)ざらめや」のフレーズだけは変わっていない。「私のために十字架にかかり血を流された主イエスのみわざ」の前に、「賛美せずにはいられようか」。これも長く歌い継がれてきた曲であるが、やはり『讃美歌21』と『新聖歌』には採用されなかった。

『聖歌』280番の歌詞が「十字架」に重点を置いていたのに対し、ローリーの詞は「賛美」が中心。最後の「うたはざらめや」"How Can I keep from singing"は、その賛美に呼応する中で全体として共鳴している。



この世の嘆きと 悩みを越えて たえなる歌声 天よりひびく
涙の時には 心にとどく み歌にあわせて 主をほめうたう

一度、新しい訳「この世の嘆きと」で歌ってみていただければと願う。ただし歌う時は、歌詞の分析はせず、想いを主に向けて。

*ローリーが1869年に出版して以来、この詞の作者は不明とされてきたが、今日では作詞もローリーであると見られている。

HOW CAN I KEEP FROM SINGING?

訳詞：中山信児

作詞&作曲：Robert Lowry

この世のなげきと主
 のこころをのみの上へなげきとにばな主
 3 やみをはこえられてたくえならみるう
 イエスりはおさらし主になあ
 6 かりがてさみんちよはりひびくすな
 たなごえにみんちよはりひびくすな
 9 ゆかみをみんちよはりひびくすな
 みだしのとくきだにもこもろにの
 12 イエスがとくきだにもこもろにの
 どがくれきみ御うたを合わせいて主
 15 だきをよかるおを満おたさでれ主
 ををほめめうたたう

1. この世の嘆きと 悩みを越えて
 たえなる歌声 天よりひびく
 涙の時にも 心にとどく
 み歌にあわせて 主をほめうたう

2. 試みの中に 主イエスはおられ
 暗やみの中に さんびはひびく
 嵐の時にも みもとにのがれ
 み顔をあおいで 主をほめうたう

3. 心を上げれば 光がさして
 主にある歩みを 導き照らす
 主イエスがくださる 平和をいだき
 よろこび満たされ 主をほめうたう

生涯にわたって出版された詩だけでも 4500 の数を誇るチャールズですが、その数ある聖詩（賛美歌）の中で「Wrestling Jacob」（格闘するヤコブ）は英国の詩の教科書にも登場するほど秀逸な作品です。賛美歌詩人としてチャールズ自身も影響を受けたアイザック・ワッツは「チャールズ・ウェスレーのこの詩は、私が創作した詩すべてを合わせてもかなわない」とコメントを残しているくらいです。

英詩を楽しむ力量が全くない私は、この詩の技巧・感性などさっぱり意に介さないのですがそれでもこの賛美歌には驚きます。それは、その長さです。なんと14節まであります。『インマヌエル讃美歌』277番（『聖歌』558番）では12節に訳しています。少し紹介します。

1. 妻子（つまこ）を先立て 暮れゆく川辺に
ただ一人在りし この身に挑みて
組み打ち始めし、旅人はだれぞ
2. われ名乗らずとも この身の過ち
罪科（つみとが） ことごと 知らしめる汝れは
いかなるお方ぞ 名をあかしたまえり

いうまでもなく、ヤコブのパヌエル体験（創世記 32:22-32）を描いた詩です。独特な神学展開もされています。

7. 実に御名は「愛」という他あらじ
汝は我がため身代わりとなりぬ
闇夜は去り行き 明日は近づく

明日には兄エサウと顔を合わせなければならないヤコブが不安に駆られて神と格闘します。そしてエ

サウと顔をつきあわせる前に、神と格闘し、神と顔を合わせているうちに、自分の罪深さを悟り、そして格闘している相手が自分の罪のために十字架にかかったイエスである事を知る、という内容です。

英詩の韻やリズムを知らなくても、訳すだけで、この賛美歌には説教的なメッセージが込められていることが歴然としてきます。

当時のテンポでこの賛美歌を歌ったら、1時間ぐらいかかるといわれています。これを大会衆が野外で賛美するのです。兄ジョン・ウェスレーの説教は、原稿として150編残っています。私はウェスレー研究者の端くれですが、よく尋ねられます。あんなに難しい説教を当時の会衆は理解していたのでしょうか、しかも無学な民衆が？ もちろん、実際



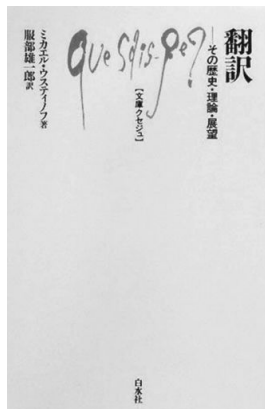
の説教と原稿とは違いがあったでしょう。しかし、会衆が見事なまでに応答していた記述を読むと、内容を理解していたに違いありません。

しかし、忘れてならないのが、野外でも礼拝堂でも会衆と共に歌われていたチャールズ作の賛美歌です。メソジストは「歌う会衆」と呼ばれていました。単調な曲を何度も繰り返すのではなく、バラエティーに富んだ詩を、神学的に優れた言葉を、聖書の物語を再現するような詩を、会衆は聖歌隊が歌っているのを聞いていたのではなく、自らが歌いました。歌いながら自分の体験としました。

さぞ、活気のある礼拝風景だったことでしょう。信仰的な雰囲気が高揚する礼拝だったでしょう。しかし、賛美はそれに止まらず、歌うことによって会衆は聖書の物語に自らを重ね、贖いの恵みを理解しました。詩と旋律が頭に残れば、帰り道にも、家に帰っても、何度も繰り返して歌って、詩の恵みを自分のものとしたはずで

本の紹介『翻訳——その歴史・理論・展望』

ミカエル・ウスティノフ著 服部雄一郎訳
文庫クセジュ 白水社



『讃美歌』（1954）が13.4%、『聖歌』（1969）14.3%。これは『讃美歌』『聖歌』に収録されたもののうち、原詞が日本語で書かれたもの——つまり日本語オリジナル歌詞——の割合です。ということは、『讃美歌』の場合は残りの86.6%、『聖歌』の場合は85.7%が外国語からの訳詞

ということになります。近年、多くの日本語讃美歌が作られるようになっているとは言え、この数字は今後もそれほど大きく変わることは無いと思われます。

事実、比較的新しい讃美歌集における日本語オリジナル歌詞の割合は次の通りです。「日本語訳曲と作曲との割合」に留意したと明記されている『新生讃美歌』（2003）で18.7%、『讃美歌21』（1997）で約15%、『日本聖公会聖歌集』（2006）14.8%、『希望の讃美歌』（2006）が8.7%です。つまり、大づかみに言って、日本語の讃美歌集では収録作品の8割以上の歌詞が翻訳であるということです。

この割合は、キリスト教が世界宗教であることと無関係ではないでしょう。世界中、福音が伝えられたあらゆる場所で、あらゆる言語で、過去も現在も将来も、讃美歌が作り続けられています。その中では、日本語によるオリジナル讃美歌の数は、ほんの一握りにすぎません。また、この割合は、キリスト教教理の普遍性とも関係があります。クリスチャンは、国や民族や言語にかかわらず、聖書に啓示された唯一の真理を握っているのですから、他国の讃美歌を翻訳して歌うことにためらを感じる必要はさほど無いわけです。

ルターはラテン語の讃美歌をドイツ語に翻訳し、カルヴァンやジュネーブの信徒たちは詩篇をフランス語に翻訳して歌いました。アメリカに渡ったピューリタンたちは詩篇を、ジョン・ウェスレーはドイツの讃美歌を英語に翻訳して歌っています。およそ150年前に来日した宣教師たちは聖書や信仰書と共に英語の讃美歌を日本語に翻訳してくれました。今、福音讃美歌協会で行っている新しい讃美歌集においても多くの

翻訳讃美歌が収録されることになるでしょう。

しかしながら、私たちは「翻訳」という営みについて、どれほどのことを知っているのでしょうか。巷に翻訳のための手引き書は多くあり、他の翻訳を評する批評家も多くいます。しかし、そのほとんどが自己の実践、体験、考えに拠っており、その限りにおいて有益ではあったとしても、「翻訳」そのものが持つ多様性とその広い地平を視野に収めた議論に出会うことは稀です。

本書は、翻訳についての一般理論の書とでも言うべきものであって、翻訳の技術や作法を扱ったものではありません。ですから、翻訳者にとって本書の意義は、翻訳の実際に向かう前に「翻訳」そのものについて概観し、翻訳者としての自分の立ち位置を把握するための助けとするとところにあると言ってよいでしょう。

「起点言語」に重点を置く逐語訳と「作者が直接フランス語（目標言語）で書いていたらそう表現したであろう形」（アンドレ・ジッド）を目指す翻訳との間には無数の可能性がよこたわっています。また、それが確信的に用いられるにしても、批判的に用いられるにしても、二つの命題、「翻訳は歪曲である」と「翻訳は一つのエクリチュールである」との間にある差異も同様のことを示しています。

残念ながら、本書には音楽作品の翻訳についての記述はほとんどありません。音楽作品、中でも有節讃美歌の翻訳は、技術的な制約の非常に多い特殊な領域になります。そして、その特殊性のゆえに、翻訳者の立ち位置は目標言語の側に大きくシフトすることになるのですが、ここにも上述のような多様な可能性が存在します。翻訳者は——自覚的であるにしろ、無自覚的であるにしろ——この可能性の中から当面のテキストと翻訳目的にふさわしい選択肢を選ぶことになるのです。

また、本書では、七十人訳からヒエロニムス、ルターを経てナイダまで、聖書翻訳の歴史と理論について多くの紙幅が割かれています。それをそのまま讃美歌の翻訳に当てはめることはできませんが、聖書と意味的に深い親和性を持つ讃美歌の翻訳を考える上で、有益な示唆を与えてくれます。（な）

❖ INFORMATION ❖

第10回 福音讃美歌協会 教会音楽セミナー（関西地区）

「礼拝における讃美」

- 日時：6月11日（金）13:00-16:00
- 場所：近畿福音伝道放送協会事務所（JR・地下鉄「玉造駅」より徒歩5分）
<http://www.kinpoden.com/>
- 講演：中山信児（福音讃美歌協会理事・讃美歌委員）
- パネルディスカッション：「礼拝における讃美～現場の声として」
司会：安西幸男
パネラー：吉川幸雄（牧師の立場から）、安西澄江（奏楽者の立場から）
- 入場無料（席上献金有り）
- お問い合わせ：075-921-1425（京都西キリスト教会 吉村）

恵みシャレー・福音讃美歌セミナー

「讃美歌とミュージカルを巡って」

- 日時：11月2日（火）～3日（水・祝）
- 場所：恵みシャレー（軽井沢）
<http://www.wlpm.or.jp/mck/>（ホームページからお申込みができます）
- 講演：井上義（福音讃美歌協会讃美歌委員）
讃美：佐渡寧子（福音讃美歌協会讃美歌委員、元劇団四季）
- 一泊三食 15,000円
- お問い合わせ：恵みシャレー Tel.0267-42-2302 e-Mail mck@wlpm.or.jp

♪ 讃美歌についての集会を企画してみませんか。

礼拝説教、伝道会、修養会、讃美についての学び、音楽奉仕者の研修や講習などに、福音讃美歌協会の理事、讃美歌委員を派遣いたします。ぜひお招きください。

- ・ 日程、内容、講師等について、ご希望をお知らせください。
- ・ 当方で調整の上、改めてご連絡させていただきます。
- ・ 福音讃美歌協会の働きについて紹介と報告をさせていただければ感謝です。
- ・ お問い合わせ：info@jeacs.org

♪ 「福音讃美歌ジャーナル」投稿募集

福音讃美歌協会の働きへのご意見、ご希望、讃美についての思い、教会での取り組みなどをお寄せください。

- ・ 原稿は600字以内。
- ・ 電子メールにテキスト書類を添付し、住所、氏名、電話番号、所属教会を明記の上、（info@jeacs.org）までお送りください。
- ・ 次号（2010年10月発行予定）掲載分は、2010年8月末日締切です。
- ・ 掲載誌の発送をもって採否の発表に代えさせていただきます。

♪ 第5回 福音讃美歌協会 定期総会のお知らせ

- ・ 日時：2010年7月12日【月】14:00から
- ・ 場所：OCCビル 6階 602号室（イムマヌエル綜合伝道団本部会議室）

＊ 会 計 報 告 ＊

2009年4月-2010年3月

■収入の部■

科 目	2009年度予算案	2009年度実績
会員負担金	1,210,000	1,205,000
正会員	750,000	750,000
準会員	60,000	60,000
賛助会員	400,000	395,000
自由献金	300,000	349,255
積立金取り崩し	200,000	200,000
その他	0	541
当年度収入合計（A）	1,710,000	1,754,796
前年度繰越金	1,047,584	1,047,584
収入合計（B）	2,757,584	2,802,380

■支出の部■

科 目	2009年度予算案	2009年度実績
理事会費	67,000	36,334
委員会費	160,000	209,184
人件費	240,000	240,000
事務費	110,000	61,658
ジャーナル発行費	350,000	359,130
カンファレンス開催費	110,000	78,628
総会開催費	40,000	24,170
JEA関係費	30,000	38,000
サンプル歌集	1,050,000	1,050,000
日本伝道会議関係費	0	109,345
予備費	100,000	0
当年度支出合計（C）	2,257,000	2,206,449
当年度収支差額（A） - （C）	-547,000	-451,653
繰越額／残高 （B） - （C）	500,584	595,931

【賛助会費納入者】（2009年4月-2010年3月）

上作延キリスト教会、キリスト教朝顔教会、栗橋キリスト教会、栄福音キリスト教会、菅生キリスト教会、世田谷中央教会、都賀キリスト教会、鶴ヶ島聖書教会、浜田山キリスト教会（9教会）

安西仁美、池田勇人、石川岩夫、石田美子、稲垣博史・緋紗子、大島章義、大滝忠子、刑部照美、神谷聡子、斎藤とし子、斎藤眞木子、高尾哲康・由希子、高橋和江、竹中久三・節子、中山信児、南場安正、パークマン・デビッド、樋口邦彦、村松容子、三川猷児、三木智枝子、山本緑、横倉知恵（23件）

【献金者】（2009年4月-2010年3月）

泉キリスト教会、泉キリスト教会有志、川越聖書教会、川越聖書教会教会員、京都伏見キリスト教会、熊本キリスト教会、こどもの国キリスト教会、世田谷中央教会、東村山キリスト教会、武蔵台キリスト福音教会、北海道聖書学院、JECA北関東夏季聖会、刑部吉重、村上久代、山守正一、中山信児、今中霽子、大塚和枝、セミナー席上献金（5月）

お名前掲載を希望されない場合は、通信欄に匿名希望とお書きくださるか、メールで（info@jeacs.org）その旨をお知らせください。

ハレルヤぼうや

by yukinko



福音讃美歌協会・会員募集

◇会員の種別は、以下の三種類です。

正会員（教会・教団・教派等）、準会員（超教派団体・グループ等）、賛助会員（趣旨に賛同し支援してくださる教会、個人等）

◇賛助会員のお申し込みは、入会申込書をご請求いただき、必要事項をご記入の上、郵送またはFAXでお送りください。承認後、年会費のお振込みにより入会が完了致します。

◇正会員、準会員のお申し込みにつきましては、協会へ直接お問い合わせください。

◆郵便振替口座◆

番号 00220-1-95127

名称 福音讃美歌協会

◆ゆうちょ銀行口座◆

番号 10500-82654721

名称 福音讃美歌協会

◆銀行口座◆

みずほ銀行 ユーカリが丘支店

普通預金 口座番号 1604668

名称 福音讃美歌協会

福音讃美歌協会 JEACS

Japan Evangelical Association for Congregational Singing

〒190-0022 東京都立川市錦町2-1-21

立川駅前キリスト教会内

事務局〒156-0044 東京都世田谷区赤堤2-44-12 小林方

ホームページ <http://jeacs.org/> メール info@jeacs.org

From Editor

編集後記

現在、2011年暮れの発行にむけて讃美歌集の編集作業が急ピッチで進められています。讃美歌集の編集は、巻頭言にもあるように、多岐にわたる大きな作業になります。既にある様々な讃美歌集を多角的に検討することから始まり、諸教会の礼拝と集会のあり方を学び、会衆や奏楽者の現状と必要を知ること。古今東西の優れた讃美歌を収集すること、翻訳、編曲、作詞、作曲等の作業。目次や構造の検討。等々。他に理事会の仕事として、様々な委員会、チーム、奉仕者の働きをひとつにまとめる作業。働き全体の予算的な裏付けをとること。諸教会への働きかけ等があります。

讃美歌集を生み出す働きは、個人や一団体のものではなく、教会の祈りと支えによってなされる教会の働きです。そして、福音讃美歌協会は教会からの委託を受け、主と教会に仕える団体です。ぜひ、お祈りに覚えてください。また、『あたらしい歌』『福音讃美歌ジャーナル・特別号』の内容についても、皆様からのご意見をお待ちしています。

最後に、今回の「ミエン語讃美歌改訂物語」は、執筆者の事情によりお休みさせていただきました。ご了承ください。世界宣教の最前線で労しておられる執筆者のためにお祈りくださるとともに、ぜひ、今回の記事にご期待ください。

(な)